

広報 きたかた 12月号

2019

No.168



喜多方市公式
facebook



特集 喜多方に住む

今、喜多方の人口は減り続けています。

一方で、喜多方に魅力を感じて移り住んでくる人たちがいます。

今回は移住をテーマに特集します。

移住者の声を聞き、暮らす姿を知ること、私たちが気付いていない喜多方の魅力が見えてくるはずです。

飯豊連峰、雄国山麓、三ノ倉高原、雄大な自然。文化財や歴史を感じさせる建造物。喜多方ラーメンや山都そば、多彩な農林産物。豊富な観光資源に恵まれ、暮らしと観光、産業が調和し、笑顔があふれる住みよいまち喜多方。

もくじ Contents

12月号
2019
No.168

P 2 特集 喜多方に住む

P 8 小中学校適正規模適正配置
基本方針を決定

P 9 わくわく！いきいき！高齢者

P 10 健康だより

P 12 拓け喜多方 まなびのトビラ
(生涯学習だより)

P 13 ホストタウン通信

P 14 喜多方フォトニュース

P 16 情報ステーション
募集／お知らせ



そんな本市も、人口に目を向けると昭和30年の8万1257人(旧5市町村合計)をピークに年々減り続けています。出生数の減少や、就学・就職による若者の市外転出が続いていることなどで、令和元年10月には、4万6592人となっています。

一方で、喜多方市に魅力を感じて移住してくる人たちがいます。

数あるまちの中で、何を感じてこの地を選んだのか。

移り住んだ今、何を思い、どう暮らしているのでしょうか。

住んでいる私たちが気付いていない魅力、住んでいるからこそ当たり前だと思ってしまう魅力。
移住者の声を通して、喜多方の魅力を考えてみたいと思います。

P 18 税／年金

P 19 ふるさと納税

P 20 宴会では食べ切り作戦「30・10運動」／「わくわく市政ふれあいトーク」対話内容

P 21 安全で効率的な除雪作業にご協力を

P 22 市功労者を表彰

P 24 財政状況

P 25 水道事業(公営会計)の業務状況／上水道を利用の皆さんへ

P 26 相談／休日当番医／献血

P 27 わくわく市政ふれあいトーク／美術館／図書館

P 28 喜多方の企業 キラリと輝く事業所紹介／人口

良い意味で人が近い。 つながりを感じるまち。

五十嵐 恵太さん・加奈子さん(喜多方)

夫 恵太さんは、山口県出身で美術大学を卒業し、移住前はWEBデザイナー。妻 加奈子さんは北塩原村出身で、移住前は都内で飲食店の店長をしていました。現在は「食堂つきとおひさま」のオーナーで、他にも週末にはアート教室を開くなど、さまざまな活動をしています。

歴史や文化を感じる街並み

加奈子さんの実家があるため、会津には良く来ていたという恵太さん。「今思えばなんとなく通った小田付の通りなどに、歴史や文化を感じて良い街並みだと思っていました」と話します。また、食べ物のおいしさにも惹かれたそうです。

加奈子さんは、市内の高校を卒業後上京し、以来東京で16年間飲食業に携わりました。結婚し、恵太さんが地元会津を気に入ったことがきっかけで、加奈子さんも地元の魅力を見直すことになりました。



①ギャラリースペースでは土産小物を販売②古民家ならではの落ち着いた雰囲気の食堂はこだわりのインテリアが並ぶ③人気メニューのカレーは地元野菜を使った優しい味



もともと自分の店を持ちたいと考えていた二人は、会津で店を出すことを「面白いかもしれない」と思ったそうです。そこで出会ったのが現在の「つきとおひさま」です。この物件に出会えたことも移住の大きな要因となったようです。

「移住に際し、相談に乗ってくれた方が喜多方にいて、建物の状態や周辺の環境、リフォームや暮らし方の提案まで、とても良くしてもらったこともあり、移住することに決めました」と、五十嵐さん夫婦。

当時そのお世話をした方は、現在の市「定住コンシェルジュ」になっている金親文史さんでした。金親さんは、市が関東で開催する移住フェアに同行するなど、移住を考える方のさまざまな相談に対応してくれています。



金親 文史さん

人のつながりを感じるまち

「お世話してもらった金親さんはじめ、喜多方の人は良い意味で距離が近くて、人のつながりを感じます」と恵太さん。

二人が引っ越してきたのは震災直後でした。「働きながらお店の準備をと考えていたところ、喜多方で知り

合った方々の助けがあり、仕事に就くことができた」と、当時を振り返ります。

それから始まった喜多方暮らし。人のつながりは広がっていき、人づてにWEBデザインのスキルを聞いた方から仕事の依頼があったり、美術関係の仕事に関わることができたりと、人のつながりは活躍の場へと導いてくれているようです。

今ではすっかり喜多方の人

喜多方で生まれ育った二人の子どもは、5歳と3歳。「うちの子に限らず、地域の子どもたちが成長したとき、帰ってきた場所になれたら」と夢を語る五十嵐さん夫婦。その姿は、すっかり「良い意味で距離が近い喜多方の人」でした。

空き家バンクに登録して 移住者を応援！

空き家を貸したい・売りたいと考える空き家所有者の皆さん。登録してみませんか。詳しくは問い合わせてください。

問 都市整備課
建築景観係
☎(24) 5267





自然も良いし、人も良い。

としき しょうこ
出口 登司紀さん・晶子さん(塩川町)

夫 登司紀さんは和歌山県出身。妻 晶子さんは会津若松市出身。
約30年間、関東圏で生活してきました。登司紀さんの仕事はグラフィックデザイナーで、移住後もテレワーク(在宅勤務)で東京の会社に勤務しています。

自分の敷地の中に畑のある生活

東京住まいの頃から畑を借りて野菜を育てていたという出口さん夫婦。「今思えば、昔から自然が好きだったのかなあ」と振り返ります。

「畑がある生活」に憧れた移住先は、晶子さんの実家がある会津でした。その後、東京で開催された移住フェアでの相談を経て、空き家改修の補助金を活用し、足りない部分は自分で試行錯誤しながら現在もリフォームを継続中とのこと。「素人ですが楽しいですよ」と、空いた時間の趣味になっているようです。

地域に溶け込めるか不安だった

「町内会で初めてあいさつをしたとき、皆さんが親身に話を聞いてくれました。移住して最初の頃は特に、畑も何もできていなかったのですが、地域の方々が山のように野菜を持ってきてくれ、それがとてもありがたかった」と出口さん。

出口さんは移住するまで草刈機に触ったことはありませんでしたが、今では、草刈りなどの地域の活動に積極的に参加しています。「今のところ、思い描いていたスローライフじゃないですけど、充実していて楽しいですよ」と出口さんは笑います。

新規就農するなら
このまちだった。

桑名 洋行さん・明日香さん(松山町)

桑名さん夫婦は共に郡山市出身。
洋行さんの移住前の仕事は、システムエンジニア。
高校を卒業して以来、約20年間東京で生活してきました。



農業がしたい

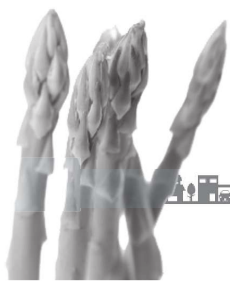
住み慣れた東京暮らしの中、漠然と農業に憧れを持った二人は、東京で開催された移住フェアに参加しました。移住先の候補地は他にもあったそうですが、新規就農者に一番力を入れていと感じた喜多方に移住することを決めたようです。「何より、相談した市の担当者や、知り合った喜多方の人たちの感じがとても良かったのが決め手でした」と、洋行さんは話してくれました。

また、明日香さんは「昔から雪国に住みたかったです。引越した時期がちょうど大雪で、わくわくでした」と笑顔で話してくれました。また、子どもの教育面を考えても、自然豊かな環境がとても良いと教えてくれました。

自分と同じような人の力に

移住後の洋行さんは、農業体験や、さまざまな研修制度を活用し、喜多方の農業者として自立を目指しているところなんです。

「今後は自分と同じような新規就農の研修生を受け入れるなど、喜多方の農業の活性化につながるように頑張っていきたい」と意気込みを話してくれました。



会津って、 贅沢なんですよ

ゆうの
成田 優之さん(熊倉町)

成田さんは愛知県出身。東京芸術大学を卒業後、茨城県の大学院に進学。現在アートに関わりながら、熊倉町にある「森姫農園」で働いています。



①



③



②

①森姫農園。予約制で食事も提供②成田さんと荒井さん。森姫農園からの景色は、会津盆地を一望できる絶景③喜多方で制作した成田さんの絵画「夢の森」

「初めて来たとき、バイクで会津坂下町から入ったんです。目の前に広がる雄国山の美しさに衝撃を受けました」と話してくれた成田さん。

成田さんは、喜多方で開催されたアートイベントをきっかけにこの地を訪れました。イベント期間中の滞在約2カ月で、喜多方での暮らしに惹かれたようです。「景色が最高で、食べ物も何を食べてもおいしい。ここで絵画の制作ができたら...と思って、結局そのまま居残ることにしたんです」と笑います。大好きな雄国山の麓に住み始めました。



「森姫農園」との出会い

働く場所を紹介されたのは、熊倉町の「森姫農園」でした。オーナーの荒井千賀子さんも20年前に東京から移住してきました。

荒井さんは児童文学作家(ペンネームは千世 繭子)。

喜多方を取材したことで縁ができた後に移住するまでとなりました。

「雄国山が大好きで、高台の農園からの眺めも毎日見飽きることはありません」と、荒井さん。心底喜多方、特に雄国山を愛しているのが伝わります。

喜多方を好きな理由が二人とも同じなのが面白いです。

良い出会いがドミノ式に訪れる

「バイクが動かなくなりました。時知らない人がわざわざ道を引き返して助けてくれたことがあって。こは親切な人たちがとても多い」と成田さん。今では困ったときに頼れる人がたくさんできたと言います。

「暮らしては、土地だけでなく、そこに住む人との関係も大切かと思いま



(左)喜多方の人を題材とした作品(右)荒井さん

喜多方 ワーキング・ホリデー

農業・農泊体験を通じて、ありのままの農家生活を体験できる事業を行っています。

受け入れに興味がある農家の方、問い合わせてください。

問 地域振興課 地域振興推進班 ☎(24) 5306

贅沢な暮らし

成田さんは、喜多方での暮らしの中で、食べ物を一から作り一番おいしい時期に食べ、生活するための物を自らの手で作っていることに心を動かされたそうです。そんな生活を、成田さんは贅沢だと言います。

景色・食・人。そして、穏やか暮らしの中で、小さい生き物の動きや音を感じ、愛しく思う。そんな成田さんの喜多方での暮らしは、描く絵画にも

反映されているようです。



首都圏での相談窓口もあります！



県では、県内への移住・就職にかかる相談窓口「福が満開、福しま暮らし情報センター」を設置しています。定期的にセミナーなども開催しています。

場所 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階(NPO法人ふるさと回帰支援センター内)※有楽町駅前すぐ

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜、祝日、お盆期間および年末年始期間

問 福が満開、福しま暮らし情報センター ☎03(6551)2989

問 地域振興課 地域振興推進班
☎(24)5306

都会に住んでいる
お子さんなどにもぜひ
ご紹介ください！



担当：田中 優多

地方への移住を希望している方を対象に、移住フェアでの相談対応やセミナーの開催などを行っています。相談会では、本市の魅力を発信するとともに、地域の情報や支援制度、仕事のことなど、一人一人に寄り添いながら相談に応じています。

首都圏での移住相談会

問 農業振興課 経営企画係
☎(24)5277

この他、
Uターンで地元
に帰り就農を目指す
方などにも、
全力でサポート
します！



担当：遠藤 健治

農村での就農や移住を考えている方を対象に、喜多方での農業や生活を実際に「来て」「見て」「触れて」もらう農業研修を定期的に開催しています。

『来て見て触れて』きたかた農業研修・生活体験事業

数あるまちの中で、移住先として喜多方を選んだ人たちがいます。

移住者の皆さんの声は、私たちが気付いていないこの地の魅力を気付かせてくれます。

「当たり前」と思っていることが実はとても魅力的なものだと、再発見させてくれます。

豊かな自然や景色、新鮮でおいしい食べ物、優しく温かい人々。

移住者の皆さんが良いと言ったこれらは全て「当たり前」ではありません。

ここに住む一人一人が、喜多方で暮らすことの魅力を改めて発見し、家族や友人と話すきっかけになればと思い、移住者の声を集めました。

年末年始で帰省する家族や友人に、「喜多方の暮らしっていいぞ」と話してみたいかがでしょう。

問 地域振興課 地域振興推進班
☎(24)5306

小中学校適正規模適正配置基本方針を決定

現在、子どもたちにとって、より望ましい学習環境を目指し、小中学校の適正な規模とそれに伴う学校の配置に関する全市的な検討を行っています。

7月から8月にかけて実施したパブリック・コメント（意見公募）を経て、喜多方市立小中学校適正規模適正配置基本方針を決定しました。

今後は、この基本方針に基づいて具体的な学校の規模や配置に関する実施計画（案）を作成し、来年度以降、保護者の皆さんや地域の皆さんの意見を聞きながら調整・決定していく予定です。今回は、決定した基本方針の概要をお知らせします。

意見交換会からの意見などで考慮すべき事項

- ① 児童生徒一人一人へのきめ細かな指導対応ができ、子どもたちが、多くの考えに触れ、学び合ったり切磋琢磨できるような環境、子どもたちの人間関係が固定化されず豊かな人間関係を育むことができるような環境、中学校においては多くの選択肢から部活動が選べる環境をどのように構築していくか。
- ② 行政区や公民館の活動対象区域と学区との整合性を考慮しつつ、地域と子ども、地域と学校との関わり合いという観点から、授業や中学校の部活動、その他教育活動全般において子どもを育む環境をどのように整えていくか。

●児童生徒数の推移 (単位：人)

区 分	2006年度	2012年度	2018年度
小学校児童数	3,190	2,761	2,209
中学校生徒数	1,841	1,444	1,230
合 計	5,031	4,205	3,439

●今後の児童生徒数の推計 (単位：人)

区 分	2030年度	2040年度	2050年度
小学校児童数	2,142	2,174	1,986
中学校生徒数	1,059	1,113	1,016
合 計	3,201	3,287	3,002

※長期人口ビジョンの将来展望人口からの推計

【学校生活や地域との関わりなどに関する配慮点】

児童生徒の日々の生活への配慮

- ① 通学に要する時間や部活動の時間、下校後の放課後児童クラブ、学習時間など児童生徒の日々の生活への配慮
- ② 障がいを持つ児童生徒への配慮
- ③ 中学校では、多くの選択肢から部活動が選べるような充実した学校生活への配慮

児童生徒の地域との関わりや学校教育・運営に関する地域との連携

- ① 児童生徒の地域との関わりや地域活動と学区との関係性などの検討
- ② 授業や中学校の部活動、その他の教育活動や学校運営に関する地域人材の活用や地域連携の検討

【その他望ましい教育環境を整えるための配慮点】

学習効果を高める仕組みづくり

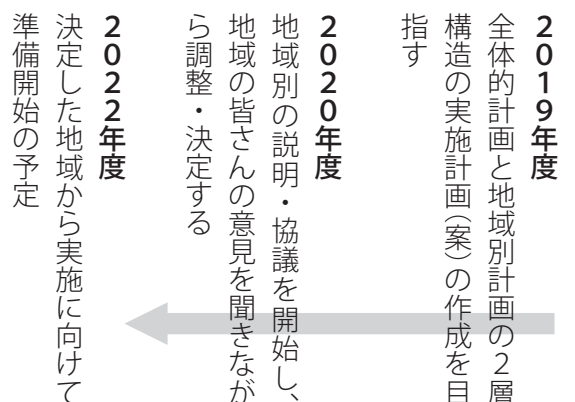
小中一貫教育校、義務教育学校などの学校スタイルやカリキュラム編成の検討、小学校同士の連携、中学校同士の連携など学習効果を高めることを目指した仕組み作りなどの検討



適正規模適正配置の基本的な考え方

子どもたちにとって望ましい学習環境を整えていくため、学級や学年に相応の児童生徒が確保され、きめ細やかな指導や対応が日々展開できる教職員体制となるような学校規模を理想としつつ、児童生徒の生活や地域との関わり、学校と地域との連携などに配慮し、具体的な学校規模と配置に関する「実施計画（案）」を検討します。

適正規模適正配置の進め方



問 学校教育部
24 5314

高齢者にやさしい住まいづくりの助成事業

転倒などにより要介護・要支援状態に陥るおそれのある高齢者などの自宅の住宅改修助成を行っています。事前申請が必要となりますので、設置前に相談してください。

対象世帯 市内に住所を有し現に居住する60歳以上の高齢者（要介護・要支援の認定者を除く）で、次に定める要件を全て満たす世帯



①申請高齢者本人が住民税非課税であり、生計維持者の所得限度額が、児童手当所得制限限度額以下である

②市税などに滞納がない

③過去に本事業の利用がない

※実態調査を実施します。

助成対象となる住宅改修 手すり設置などの小規模な住宅改修を対象

※詳しくは問い合わせてください。

助成金額 対象工事の4分の3に相当する額（上限15万円）

申請期間 工事竣工予定日が当該年度を超えない期間

問 高齢福祉課 いきがい支援係

☎(24) 5230または各総合支所住民課

短縮版「座位編」手を分け開く動作

今月の担当…佐々木 洋子さん（太極拳ゆったり体操リーダー）

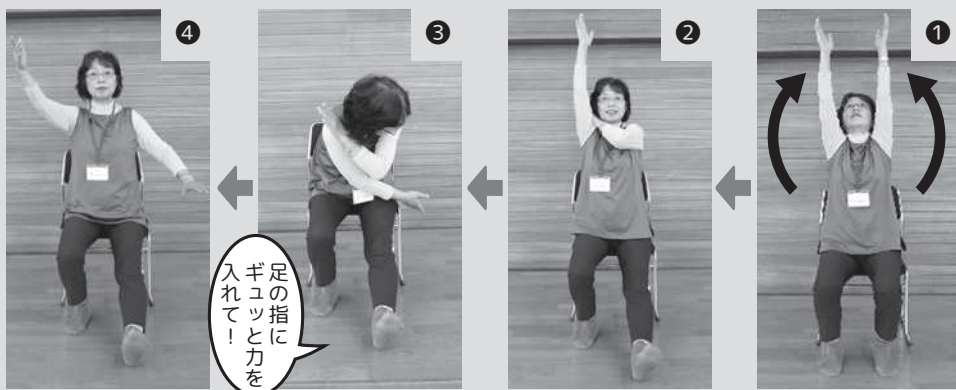
写真を見ながら、鏡を見るように動作をまねてみてください。左右1回ずつ行います。

30分～1時間の体操です。無料で指導員を派遣できますので、集会場などに集まって、みんなで体操しましょう。

問 高齢福祉課 介護予防係 ☎(24) 5242

①手を横から上に上げ、手のひら同士を向かい合わせます。②右の手を肩に置きます。右かかとを前につき、膝を伸ばします。③腰を右に回してから、左の手が右の足の外側にくるようにかがんでいきます。④左の手が斜め上、右の手が斜め下で大きくゆったりと分け開きます。

※腰が痛い方は背中を反りすぎないように注意してください。



やってみよう！
太極拳ゆったり体操⑤

第9回 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて

先月号では、平成30年度の更新申請者の前回の認定と、更新後の認定結果を取り上げました。今月号では、さらに「要支援1」「要支援2」の軽度の方の結果を分析します。

《要支援2》123人の分析》

・改善 33人 26.8%
・維持 65人 52.9%
・悪化 25人 20.3%

「要支援2」は、状態が改善される可能性が十分にある段階です。

《要支援1》123人の分析》

・改善 3人 2.4%
・維持 59人 48.0%
・悪化 61人 49.6%

「要支援1」は、一番低い介護度です。比較的自立に近い方が、認定期間を満了し、更新申請した結果、改善された方が、2.4%しかおらず、悪化した方が2人に1人います。

この軽度の段階で改善を図り、状態を回復しておくことが重要です。

問 高齢福祉課 地域包括ケア推進係

☎(24) 5242



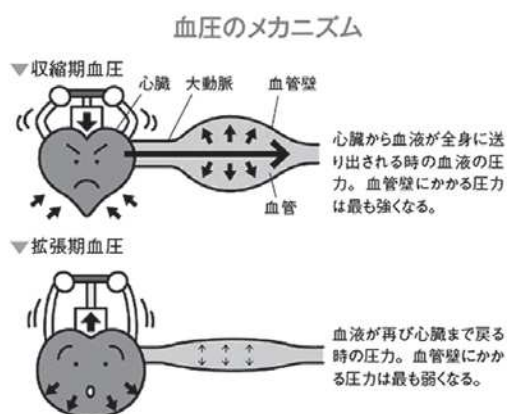
健康寿命を伸ばすための血圧管理

そもそも血圧とは？

心臓から送り出された血液が血管の壁に与える圧力のことを「血圧」といいます。

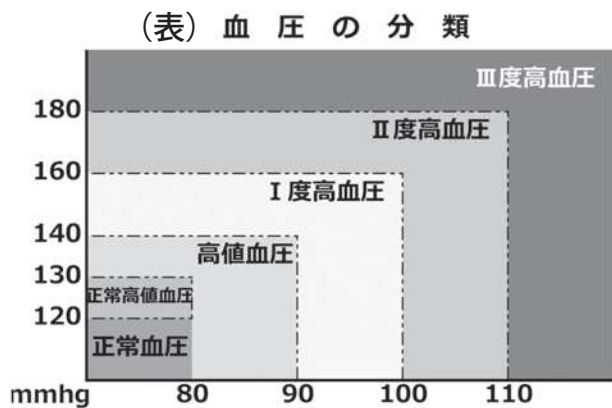
心臓が収縮して全身に血液を送り出した時の血圧を「収縮期血圧（または上の血圧）」、心臓が弛緩して全身から返ってくる血液を受け入れている時の血圧を「拡張期血圧」と言います。

血圧の値は、心臓から送り出される血液の量（心拍出量）と、血管の硬さ（血管抵抗）によって決まります。



高血圧の基準は？

2019年4月に改定された高血圧治療ガイドラインでは、「高血圧基準値」は従来通り140/90 mmHgですが、脳卒中をはじめとした脳血管疾患や心筋梗塞のような心血管疾患のリスクを確実に減らすためには、**高血圧という診断がなくても130/80 mmHg未満を目指すことが推奨される**ようになりました。



「高血圧治療ガイドライン2019」日本高血圧学会2019.4.25より作成

上の表は、診察室で測った血圧の値です。家庭で測る場合は、表の値よりいづれもマイナス5 mmHgとする必要があります、さらに正常血圧の範囲が狭まります。

まだ自宅での血圧測定の実行がない方は、すぐに測定を始めることをお勧めします。血圧測定は動脈硬化の程度を把握するため重要です。

高血圧になる原因は？

高血圧の発症には環境要因と遺伝的要因が関与します。

塩分の摂り過ぎ、肥満、運動不足、喫煙、多量飲酒など、さまざまな環境要因が考えられます。

また、血のつながった両親や兄弟姉妹に高血圧の人がいる場合は、遺伝的要因があると考えられます。

高血圧は、「沈黙の殺し屋」

血圧が高くても「別に症状もないし」という声をよく聞きます。それもそのはず、血管には痛覚がないため痛みを感じません。

しかし、高血圧を放置すると致死率の高い血管病を発症します。

そのため、高血圧は、「サイレントキラー（沈黙の殺し屋）」とも呼ばれています。

現在、高血圧を起因とする脳・心血管病で年間10万人以上が死亡しているといわれています。

高血圧によって

障害されやすい臓器

高血圧状態で障害されやすい臓器を守るために改定版高血圧治療ガイドラインでは基準値を厳しく設定することになりました。

図は障害を受けやすい臓器の血管走行で、脳血管（穿通枝）、心血管・冠動脈（左前下行枝）、腎臓（輸入細動脈）の血管にはある共通点があります。「太い血管からいきなり細い血管になる構造」という点です。高い圧が直接細い血管にかかることで障害され、動脈硬化を促進してしまいます。



要介護度別に見た介護が必要と

なった主な原因として、脳血管疾患があげられます。高血圧により脳血管の障害が促進されることで多発性脳梗塞が発症し、認知症を招きやすいため、血圧管理をすることは介護予防にも重要な役割を担っています。

問 保健課 健康推進室
☎(24) 5223

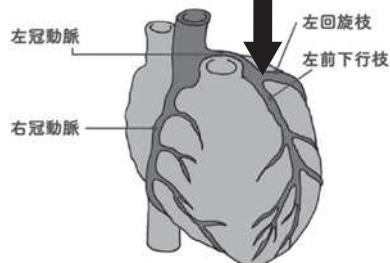
腎臓

腎臓（輸入細動脈）



心臓

心血管・冠動脈（左前下行枝）



野菜を食べて 血管イキイキ♪ 若々しく♪

抗酸化ビタミンのエース(A・C・E)

ビタミンA → 細胞膜の奥で活性酸素を撃退

ビタミンC → 血液中の活性酸素を除去

ビタミンE → 細胞膜の酸化防止

野菜は、**ビタミン、ミネラル、食物繊維**を含み、細胞を若返らせます。

私たちに必要な野菜の量は1日**350g**です。(緑や赤など、色の濃い緑黄色野菜**100~150g**、淡色野菜**200g**です。)

現状は280g程度しか摂れておらず、あと約70gが不足しているといわれています。

小松菜

ほうれん草

ビタミンACE
1株 30~50g

人参

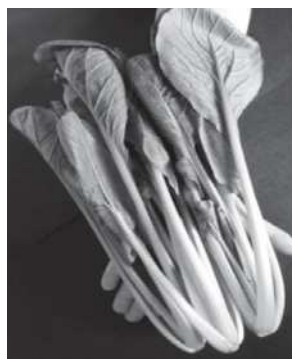
ビタミンA
中1本 200~250g

大根

ビタミンC
中1本 1kg前後

にら

ビタミンE
1束 100g



左記の小松菜は片手に**100g**の状態です



少年の主張福島県大会

市代表
石山さん(高郷中)が最優秀賞
山内さん(塩川中)が優秀賞

9月27日(金)サンライズもとみやで、第41回少年の主張福島県大会が行われ、市の代表として出場した石山^{いしやま}心南^{みなみ}さん(高郷中)が最優秀賞を、山内^{やまうち}萌花^{もえか}さん(塩川中)が優秀賞を受賞しました。

石山さんは聴覚障がいのある弟を思う優しい気持ち、手話に引き込まれたこと、社会性を持ち合わせた将来の夢について発表しました。山内さんはNOと云えない自分と向き合い、本音を言うことで自分を支えてくれる仲間がいることを知り、部活動に生かした経験について発表しました。

石山さんは北海道・東北ブロックの代表として、12月8日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる全国大会に出場します。

全国約55万人の応募者から選ばれた12人の1人として、堂々とした発表を期待しています。

全国大会の様子は、次月号で紹介します。

問 生涯学習課 生涯学習係
☎(24) 5318



若者の若者による若者のための自分磨き事業 「サバイバルゲーム」を実施

11月2日、事業参加者が企画した「サバイバルゲーム」を実施しました。サバイバルゲームフィールドストロンガー(郡山市)を会場に、2チームに分かれてゲームを行いました。

お互いの陣地に設置されたブザーに向かって攻め込み、先に相手のブザーを鳴らしたチームが勝ちというルール。チーム毎に戦略を立て、相手チームに攻め込む人、自分の陣地を守る人、と役割を考えながらゲームを行いました。

参加者からは、「なかなか体験できないことを体験することができた。体も頭も使って、普段味わえないスリルを感じることができた」などの感想があり、好評でした。

企画した事業は、順次参加者を募集しています。

詳しくは公式フェイスブックをご覧ください。



公式facebook
QRコード

問 中央公民館 企画事業係
☎(24) 4811



最優秀賞を受賞した
石山 心南さん(高郷中)



優秀賞を受賞した
山内 萌花さん(塩川中)



ホストタウン通信



Vol.5

これまで行われたホストタウンイベントをお知らせします

▼ 8月2日 第29回世界少年野球大会福島大会交流事業(福島市あづま総合運動公園)

世界14か国・地域の135人の野球少年らと、県内の野球少年との交流事業が行われました。本市からは、喜多方野球スポーツ少年団の児童が参加し、米国などの野球少年とタグラグビーを楽しみました。



海外の方と交流したことがなかったので、とてもわくわくしました。
タグラグビーで遊べて楽しかったし、良い思い出となりました。これからも国際交流をしてみたいです。



喜多方野球スポーツ少年団
いまい きすけ
今井 希祐さん(駒形小5年)



◀ 10月26、27日 オリンピック・パラリンピックを体験！ふくしまフェスティバルin郡山

イオン郡山フェスタ店で、県およびホストタウン市町村の主催により開催されました。本市は、米国ボート協会とのホストタウン交流事業の写真展と、エルゴメーターを使ったボート競技体験会を行いました。ボート競技体験には、2日間で300人を超える参加者があり、多くの方々にボート競技と米国とのホストタウンをPRすることができました。

▶ 11月4日 復興ありがとうホストタウンサミット交流イベントinJヴィレッジ

パラリンピック競技種目のブラインドサッカーの日本代表対アルゼンチン代表の親善試合観戦や、アルゼンチン代表選手とのブラインドサッカー体験会が行われました。本市からは、FCエスペランサスポーツ少年団の児童が参加しました。

参加した児童は、アルゼンチンの選手と交流するとともに、ブラインドサッカーの魅力に触れました。



県内では、18の市町村が「ホストタウン」や「復興ありがとうホストタウン」に登録されていて、それぞれの相手国の選手や関係者との交流事業に取り組んでいます。
今回紹介したイベントの他にも、さまざまなイベントが実施されています。
このようなイベントは、米国をはじめ、いろいろな国、地域の方々と交流できる機会となります。これからのイベントなどもお知らせしますので、楽しみに待っていてください。



担当者：ゆき

問 生涯学習課 スポーツ振興係 ☎(24)5327